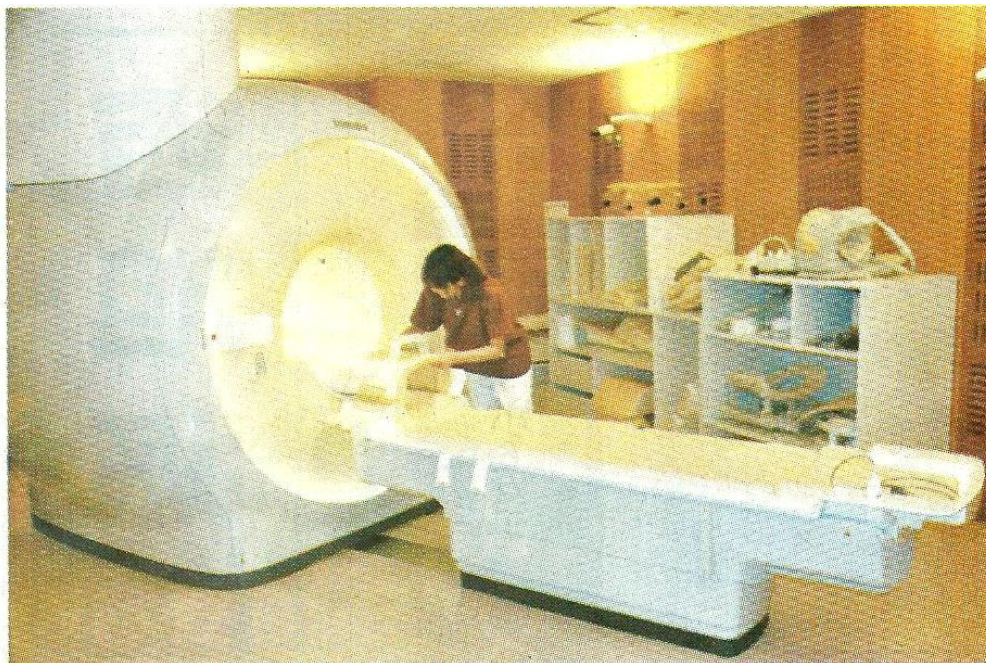


3テスラMRI導入

西胆振初
1日稼働 画像精度アップ

製鉄記念
室蘭病院



製鉄記念室蘭病院が導入した「3テスラ」のMRI

室蘭市知利別町の製鉄記念室蘭病院（松木高雪病院長）は、磁場強度が「3テスラ」の磁気共鳴画像装置（MRI）を導入した。西胆振では唯一の装置。MRIは磁場強度が増すことで精度の高い画像描写が可能となる。3テスラMRI導入で「血管や神経など、全身の画像診断の精度が一層高まる」という。4月1日からの稼働を予定している。

同病院が導入したMRIは、3テスラ（磁束密度の単位）の装置。西胆振最初の磁気共鳴専門技術者で、放射線・画像診断室の合田修技師は「MRIは数字に合わせて磁力も大きくなる。磁力が大きいMRIは

体内の細部までよく分かる画像が作り出せる」と解説する。

細部が分かる画像のため、「細かい血管や小さい萎縮も分かる。脳疾患の診断でも有効となる」（林征志・脳神経外科長）ほか、肝臓や前立腺のがん、軟骨や靭帯損傷などの整形外科領域、心臓を中心とした循環器領域などでも大きな効果を発揮する—という。

同病院で行った2013年（平成25年）のMRI検査件数は計約5千件。これまでは1・5テスラMRI1台で対応してきたが、4月1日からは、3テスラMRIを含む2台体制で検査を進める。このため、患者の待ち時間短縮や他医療機関の検査依頼も迅速に進められる—など「画像の高精度化だけでなく、適切で正しい治療など西胆振の地域医療にも大きく貢献できる」（同病院）としている。

（松岡秀宜）